

# 岡崎城下二十七曲り活用報告書

岡崎市中心市街地活性化推進委員会  
二十七曲り活用検討ワーキンググループ

平成22年3月

## 二十七曲りとは…

岡崎の二十七曲り」は、1590年に岡崎城主となった田中吉政が城下整備にとりかかり、菅生川の南にあった東海道を城下へ引き入れた際、屈折を多くすることで外敵から城までの距離を伸ばし、間道を利用した防衛機能を有する典型的な城下の道である。江戸時代の岡崎は、宿場町であると同時に城下町であり、岡崎宿は矢作川の水運や奥三河からの物資の集散地として繁栄し、東海道のなかでも3番目に大きく、屈折の多い、その町並みの長さでも有名であったと言われている。欠町、両町、伝馬通から籠田町を抜け、連尺通、材木町、田町、板屋町、八帖町、矢作橋へとつながっており、戦災復興により一部、道でなくなった箇所はあるものの、現在もほぼ忠実に残る“まちなかの東海道”である。